

## 漢語サ変動詞の受身文とその中国語訳文の対応関係

陳曦

本発表は、漢語サ変動詞の受身文が中国語においてどのような構文に訳されるか、その対応関係を調査資料のジャンル差と漢語サ変動詞の意味的特徴の観点から分析したものである。日本語と中国語訳がある小説、論説文、新聞三つのジャンルから収集した用例を対象に、漢語サ変動詞の受身文と中国語訳文との対応関係を明らかにする。また、中国語母語話者の内省と『国家語委現代漢語コーパス』を用い、中国語の受身文に用いられない語を見出す。その上で、それらの語に対して、『分類語彙表』を用い、その「中項目」によって意味分類を行う。以下のことがわかる。

(1) 漢語サ変動詞の受身文に対応する中国語訳文で能動文は小説、論説文、新聞のいずれのジャンルでもその割合が最も高く、主な漢語サ変動詞の受身文に対応する構文となる。能動文は新聞で、受身文は小説で、その他は論説文で最も多く用いられている。それは、調査資料のジャンルの差異によると考えられる。小説で人間が被害をうけるのを表す内容が多く、その意味合いは中国語の受身文の用法と合致する。論説文と新聞は客観的に事実や主張を論述するため、中国語の受身文を使用しにくいと考えられる。

(2) 用例に現れた異なりで 690 語のうち、284 語(4 割)が中国語の受身文に用いられない。『分類語彙表』の「中項目」によって、意味分類を行った結果、中国語の受身文に用いられない語は主に「心」(例:表示する, 用意する, 提示する), 「作用」(例:反復する, 開始する, 改善する), 「事業」(例:出版する, 掲載する, 上映する), 「言語」(例:発表する, 説明する, 公表する), 「存在」(例:形成する, 実現する, 創立する)にあることがわかる。